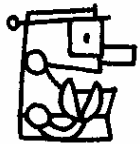


空気中のちっ素は、どんな役目をしているの



酸素のはたらきが、はげしくなりすぎないように、調節役をしているのさ

空気の成分の大部分は、ちっ素

空気は、いろいろな種類の気体が混じってできています。でも、そのおもな成分は、体積の割合で、ちっ素が78%、酸素が21%、アルゴンが1%、二酸化炭素が約0.03%といったぐあいで、ほとんどが、ちっ素です。

ちっ素は、不活発な気体で、なかなかほかの物と結びつきません。逆に、酸素は活発な気体で、たいていの物と結びつきやすく、特に、高温では、急激きゅうげきに結びつき、熱や光を出します。

ちっ素は、空気中の酸素のはたらきを、おだやかにさせている

酸素は、ふつうの気温でも、ほかの物と結びつきやすい性質をもっています。空气中で少しずつ金属がさびたり、リンゴの切り口がかっ色に変化したり、花のしぼりじめるの色が変わるのは、酸素のはたらきのためです。

空气中では燃えにくい鉄（スチールウール）も、酸素の中に入れると、はげしく火花を散らして燃えます。もし、空气中にちっ素がなくて酸素ばかりなら、物がこすれて小さな火花が出ただけでも、ばく発ばくはつしたり、燃え上がったたり、ということがひんぱんになり、とても危険きけんな世の中になることでしょう。

ちっ素が空气中に多いことで、酸素の活発さがおさえられているのです。

ちっ素は、酸素があばれるのを、ふせいでいるんだ。

